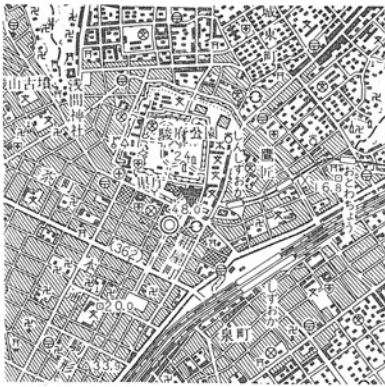


静岡・駿府城三の丸跡

- 1 所在地 静岡市追手町
- 2 調査期間 一九八六年(昭61)一月～三月、七月～十一月
- 3 発掘機関 静岡県教育委員会
- 4 調査担当者 山下 晃・黒田勝久・村上誠二・羽二生 保
- 5 遺跡の種類 集落跡・城跡
- 9 遺跡の年代 古墳時代後期、奈良時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

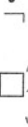


(静岡)

駿府城跡は賤機山東南の安倍川扇状地の扇央部に立地している。この地域は、賤機山によって北西の風がさえぎられ、安倍川の水害に対しても比較的安全で、静岡平野の中でも最適な生活環境を形成している。今回調査した部分は、駿府城の三の丸で江戸時代には城代屋敷が置かれていた部分である。付近からは、今川氏館と思われる跡や、駿府城に関わる遺構はもとより、

弥生時代中期・後期、古墳時代初頭の集落跡が発見されている。今回の調査では、新たに古墳時代後期、平安時代後期の遺構が検出され、時期により集落の位置が変わっていることが判明した。木簡が出土した遺構は、中世の流路跡とゴミ穴と思われる土壌である。流路跡からは漆塗椀、陶磁器、かわらけ、木製品等が多く出土し、これらの遺物は一六～一七世紀に比定できる。土壌からは多量の木製品、植物遺存体と共に、漆塗椀、瀬戸・美濃産の鉄釉皿、唐銭・北宋銭等が出土し、時期は一六世紀後半に比定できそうである。

8 木簡の釈文・内容

- (1)  ×十七九ノ
〔八カ〕
(198) × 45 × 3 019
- (2)  鬼
〔鬼カ〕
九九 〔八カ〕
×
〔籠カ〕
(192) × 37 × 3 081
- (3)  三本
〔鯖カ〕
(103) × 20 × 4 032
- (4)  筑後様
〔 〕
(106) × 21 × 5 011



(3)

同『駿府城三の丸跡発掘調査報告書』(一九八七年)

(羽二生 保)

9 関係文献

静岡県教育委員会『駿府城跡内埋蔵文化財発掘調査報告』(一九八三年)

木簡は合計五点出土し、(1)と(2)が流路跡から、他は土壙から出土した。(1)は木簡の中央部に文字が書かれているが、ほとんど消えてしまっている。文字が書かれていた部分は他の部分より腐蝕が遅れるようで、若干浮き上がっており、今後判読可能かもしれない。性格としては(2)とともに呪符木簡と思われる。

(3)の第一字は「鯖カ」としたが、あるいは鯖さばの可能性もある。用途としては荷札であろう。

(4)の「筑後様」の上の二文字が判読できない。したがって人物の比定はできないが、共伴遺物から一六世紀後半に位置づけられ、今川氏に關係する人物の可能性が高い。

五点目の木簡は墨痕は認められるが判読不能であった。

木簡研究 第四号

巻頭言——木簡保存法の思い出——

一九八一年出土の木簡

坪井清足

概要 平城宮跡 奈良女子大学構内遺跡 法隆寺 藤原宮跡 長岡京跡 三条西殿跡 鳥羽離宮跡 若江遺跡 佐堂遺跡 大阪城

三の丸(大手口)遺跡 小曾根遺跡 尾張国府跡 下津城跡 坂尻遺跡 小川城跡 恒川遺跡 三ツ寺Ⅱ遺跡 下野国府跡 多賀

城跡 郡山遺跡 胆沢城跡 道伝遺跡 笹原遺跡 明成寺遺跡 安田遺跡 大森鐘島遺跡 高堂遺跡 漆町遺跡(C地区) 南吉

田葛山遺跡 百間川遺跡群(原尾島遺跡) 草戸千軒町遺跡 道照遺跡 長門国分寺跡 野田地区遺跡 湯川神社境内遺跡 大宰

府跡(大楠地区) 九州大学(筑紫地区) 構内遺跡 長野遺跡 辻田西遺跡

一九七七年以前出土の木簡(四)

平城宮跡(第二次南・第二七次・第二八次・第二九次)

呪符木簡の系譜

木簡と上代文学——水産物付札をめぐる——

「漆紙文書」出土概要

彙報

和田 萃
小谷 博泰
佐藤 宗諒

頒価 三五〇〇円 一四〇〇円